

▼中国

フアジアーノ岡山

悲願のJ1昇格

有吉 和生(RSK)

昨年12月7日午後3時少し前、ついにその時が来た。サッカーJ2フアジアーノ岡山が仙台を2-0で破り、J1昇格を決めたのだ。

チーム誕生から20年、ついに悲願を達成した。翌日の地元紙・山陽新聞は当然1面で大きくこれを報じた。フアジアーノ岡山は、川崎製鉄(現JFEスチール)水島サッカー部OBにより1975年に結成されたリバー・フリー・キッカーズを前身とする。

昨年12月3日にはお隣、韓国でユン大統領が1987年の民主化以降初めて「非常戒厳令 戒厳令」を発令した。戒厳令と言えば微かに思い出されることがある。「その年、四人のハプロが死んだ」で始まる五木寛之の小説『戒厳令の夜』が1975年、小説新潮に連載された。奇しくもフアジアーノ岡山の前身チームが誕生した年である。

フアジアーノというチーム名の由来は岡山県の鳥「キジ」である。

JFLの下部リーグの地域リーグからスタート。2006年には大手証券会社執行役員、木村正明氏がその職を辞してチームの運営に参加し、社長となる。

木村氏は「子供たちに夢を」をクラブ理念とした。そして、Jリーグでは異例の、特定企業ではなくサポーター等が広く支える形をとった。それだけに今回のJ1昇格は市民の感動も大きいものになった。

チームは2009年、J2に昇格。1年目はダントツで最下位。当時は入れ替え戦がなかった。実はJ2昇格を機に山陽放送(RSK)は、当時スカパーから委託されホームの試合を制作した。

その後、J2は2012年に22チームによる2回戦総当たり戦になり、フアジアーノは初めての1桁順位、8位となる。

しかし当時は練習場が無く、仮住まいの状態。2013年、ようやく岡山市が練習場を整備。その後、チームは1桁と2桁の順位を行き来し、2016年、過去最高の6位。J1昇格プレーオフに進むも決勝でC大阪に惜敗し、昇格に失敗。

2022年、J1仙台から木山隆之氏を監督に招聘すると過去最高の3位と躍進。しかし、プレーオフ1回戦で敗退。そして2024年、リーグ戦ラスト3連勝し、5位で3回目の昇格プレーオフに進出する。

勢いづいたチームは準決勝で、2年前に敗れた山形にアウェイで3-0と完勝する。決勝は仙台を2-0と完封、ホームで悲願のJ1昇格を決めた。チーム誕生20周年、J2参戦16年目の昇格に満員のサポーターは歓喜の瞬間を迎えた。

J1昇格はチームにとっては商品価値が上がり、収入も増える。当然、岡山県内への経済の波及効果も見込める。

これまで岡山はプロのスポーツチームと無縁だった。隣の広島県にはプロ野球球団、サッカーではサンフレッチェなどがある。しかも専用のスタジアムがあり県民に愛されている。岡山のホームスタジアムは県営の陸上競技場がメインで、色々とJ1基準を満たしていない。専用スタジアム建設に向けての機運は、J1での成績が大きく左右すると思われる。J1の高いレベル

に対応し、サポーターを引き付けることが出来るのか。

Jリーグは地域との密着を謳っており、幸いフアジアーノ岡山は市民のチームであり「子供たちに夢を！」が理念である。今後、岡山県人に更に愛されるチームとして様々な課題にどう対応していくのか。

2月15日の第1節、ホームでの京都との試合で見事にJ1初勝利を飾った。先輩サンフレッチェ広島とは第10節で対戦する。

